

Q. 保護者や地域、社会と連携するよさは？

A. 小平市教育委員会には地域連携アドバイザーという方がいます。地域連携の必要性についてお話を伺いました。

地域連携アドバイザーとして活動されてどんなことを感じていますか？



稲田さんは昨年度まで市内小学校で校長先生として活躍されていました。「地域は大きな教室」という考えで、地域に根ざした教育活動を展開されてきました。今年度より地域連携アドバイザーとして、これまでの経験を生かして学校教育支援のために活躍されています。

1学期に市内の全小中学校を生涯学習推進課と一緒に回り、地域と学校との連携の状況について聞き取りを行いました。それぞれの地域には魅力的な方がたくさんいて、学校支援ボランティアが市内で広く活動していることは小平市の大きな財産だと強く感じました。学校や地域によって連携の取組方は様々ですが、そうした活動がその場に埋もれてしまうのではなく、市内全域で互いに学び合うシステムが必要であると思います。

互いに学ぶシステムとして成功したのが図書ボランティアや安全ボランティアです。小平市では学校支援ボランティア養成講座を開き、ボランティアの育成に取り組みました。その結果、市内全小学校、中学校でも7割の学校で図書ボランティアが活動しています。見違えるような明るい

図書室に改修したことや全小学校の図書をパソコンに入力し、バーコードによるシステム化の実現も図書ボランティアの手によるものです。大きな成果が見られます。また、安全ボランティアも昨年度延べ20万人が参加するといった全市的な取組になっています。このように互いに学び合いながら、より質の高いものにしていくことが大事であると感じています。

地域連携のよさとは何ですか？

地域連携をしていくよさは、開かれた教育活動によって豊かな人間関係がつけられていくことだと思います。学校支援ボランティアの方は、「子どもから元気をもらっています。」「自分が成長していくのがわかります。」と楽しそうに話してくださいます。学校という子どもたちとの出会いの場で、自分が生涯学習として取り組んでいる学びが活かされるとすれば、地域の方々にとっても、学ぶ喜びが膨らむのではないのでしょうか。

小平市教育委員会 生涯学習推進課の話

小平市教育委員会では、今年度より「地域連携アドバイザー」として稲田さんを迎えました。稲田さんは、小平市の地域連携のパイオニア的存在です。先生自身が地域連携のノウハウをいろいろ知っていらっしゃるの、そのノウハウで学校支援をしていけるようお願いしております。また教育委員会内で指導課と生涯学習推進課との橋渡しの存在として、地域連携を進めていただきたいと思います。

また、子どもたちにとっては、身近にたくさんのよき大人のモデルに触れることになります。それは、子どもたちの夢につながります。同時に教師にとっても視野を広げる良いチャンスでもあります。こうしたパートナーシップによって互いが活性化していくと思います。

学校を拠点として、学びと出会いの場を創り出していきたいと考えています。

行政は地域連携にどうかかわるとよいですか？

これからは学校と地域をつなぐ学校教育コーディネーターが重要な役目を果たすと思います。しかし行政がコーディネーターを養成し、機械的に学校へ入れていけばいいかというと、それではうまく機能しません。地域や学校が自分たちの手で地域や学校に合った仕組みを作り、行政が支援するのが理想だと考えています。前述したような図書ボランティア講座等いろいろな情報交換の場やコーディネーターやボランティア等の資質向上が図れる研修会等の設定などは行政の役割と考えています。

これからの課題は何ですか？

放課後・週末活動支援の子どもたちの居場所づくりから始まった「小平よさこい」の活動は、今では全市的に広がり、さらに行政の後押しもあり、高校生や大学生が積極的にかかわるなど新しい風を地域に起こしています。このような地域活動が行政や企業と連携し、信頼のネットワークを結び、社会全体で子どもを育てる仕組みを作っていくことが課題であると考えます。



スクールダンスフェスティバルでは、子どもたちから高校生、大学生、大人まで各校独自の「よさこい」踊りやダンスが競演する。

学生ボランティア懇談会

小平市では、多くの学校支援ボランティアが学校を支えています。その一翼を担うのが市内在住・在学の大学生です。小平市では学生ボランティア制度を平成12年度より導入し、今年度は10月現在で224名が登録しています。平成16年度には延べ2683名の学生が学習支援をはじめとして、部活動、行事等で活躍しています。

小平市では年1回、学生ボランティアと市内小・中学校の校長・副校長、大学関係者、教育委員会関係者と懇談会を開いています。今年の懇談会でも活発な意見交流が行われました。

学生からは「大学の授業では得られない、いい経験ができています。」「改めて中学校の先生になりたくなった。」「自分の成長につながっている。」という話や「先生方ともっと密に打合せができるようにしたい。」「他のボランティアの方がどのように動いているのか知りたいので、もっと多くの学生ボランティアと交流し情報交換をしたい。」という積極的な意見も出されました。学校側からは「管理職が給食を一緒に食べながら学生ボランティアの要望を聞いて担任に伝えている。」「児童集会に学生ボランティアにも参加してもらっている。」「問題を抱える児童へ個別対応してもらっている。」などの情報交換があり、有意義な会となりました。小平市では、こうした意見を参考にしながら、ボランティア制度をさらに発展させていくそうです。



活発な意見が交わされた懇談会。